

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「福(かぐらふぐ)呼ぶ」商品開発と体験事業
事業主体 (連絡先)	一般財団法人 飯田市南信濃振興公社 (Tel 0260-34-1131)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,973,952 円 (うち支援金: 1,480,000 円)

事業内容

滞在型観光を見据えた体験メニューの1つとして、特殊樹脂を材料にストラップづくりをする指導者育成と、特長ある地域の素材である試験養殖中のトラフグや溪流魚、遠山の霜月祭面(おもて)などの土産品開発を進め、地域の産業振興や新たな雇用の場の創出を目指す事業である。

商品の製作者並びに体験教室の指導者育成のため、必要な器具機材を購入し、指導(製作)者として8名が参加し18回の講習会を開いた。

小学校高学年を対象にした2回の体験教室で、参加した子ども達からは、自分自身で作った世界に1つしかない作品に満足し楽しかったという感想があった。



【ストラップづくり体験教室】

自分自身で製作した世界に1つしかない作品に満足した小学生

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 体験教室に参加した子ども達の感想から体験メニューとして提案できることが確認できた。
- ② 特長ある地域資源である試験養殖中のトラフグ、溪流魚、遠山の霜月祭の面(おもて)の素材を活かした土産品を試作し、商品化できることが確認できた。
- ③ 指導者(製作者)として8名が登録できた。引き続き、技能を修得することで事業の目的に到達できる目処ができた。
- ④ 講習会を通じて、今後の組織化と自立した運営への移行につながることを期待できる。

【目標・ねらい】

- ① 体験型観光の創造
- ② 地域素材を活かす商品づくり
- ③ 製作者・指導者の育成
- ④ 製作者・指導者の組織化

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成30年中の商品発表、及び観光客体験メニューの募集を実施できるよう進める。
そのため、指導者(製作者)の技能をさらに高められるよう講習会や商品開発を継続していくとともに、新たな受講生を募り仲間を増やしていく。
その先として、自立した事業者(団体)となるよう、製作者・指導者の組織化を進める。

※自己評価【B】

【理由】

当初の計画に比べ技術の習得に時間がかかることが分かり、講習会の回数を増やした。
少し甘い計画であった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある